

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター

令和6年度 事業報告書

公1 景観まちづくり事業

住民主体のまちづくりの実現と、歴史都市・京都の美しい景観、良好な環境を具現化し、京都の都市としての品格を高めるとともに都市活力の向上に寄与することを目的とする。

1 各種情報の収集、発信及び啓発

(1) 広報活動事業

ア ニュースレター「京まち工房」

景観・まちづくりに関する各種情報、地域、関係団体等の活動状況、当財団の事業等を掲載した広報紙ニュースレター「京まち工房」を発行した。表紙にはイラストレーターとしてアトリエTAM（タム）主宰、「町家えほん」、「福ねこお豆のなるほど京暮らし」を出版している山口珠瑛氏の京都の文化や歴史を描いたイラストを掲載した。賛助会員、関係団体、大学、区役所等に配架し、広く市民のまちづくりに対する意識を普及・啓発した。

- ・年4回発行（6月、9月、12月、3月）
- ・各号3,500部
- ・賛助会員、全国のまちづくり関連機関、京都府下大学等へ配布

号数	発行日	概 要
第107号	R6. 6. 20	（特集）防災まちづくりと町家のイベント
第108号	R6. 9. 20	（特集）ファンド改修事例とすまいとまちフェスタ
第109号	R6. 12. 20	（特集）防災まちづくりと京町家の未来
第110号	R7. 3. 20	（特集）京町家カルテの活用と行事開催報告

イ 財団ホームページ等

財団ホームページを通じ、当財団の取組や景観・まちづくりに関する最新情報を発信した。財団公式のフェイスブックページでは、イベント情報や当財団の活動状況等を積極的に発信することで情報力強化に努めた。

- ・財団ホームページアクセス件数 67,524 件
- ・ひと・まち交流館内・センター（施設）ホームページアクセス件数 6,671 件
- ・メールマガジン配信 16 回
- ・メールマガジン購読者数 1,793 人
- ・公式フェイスブックページ投稿数 66 件

ウ 各種啓発冊子、技術資料等の販売

当財団が発行する書籍や受託販売書籍、京町家等組み立てキットなど、景観・まちづくりに関する各種啓発冊子等を販売した。

(ア) 冊子等の販売

- ① なるほど！「京町家の改修」 ((公財) 京都市景観・まちづくりセンター)
- ② 京町家の再生 ((公財) 京都市景観・まちづくりセンター)
- ③ 京町家物語 ((公財) 京都市景観・まちづくりセンター)
- ④ Kyoto Machiya Restaurant Guide (Judith Clancy)
- ⑤ 百人一首で京都を歩く (京都百人一首・かるた研究会 代表) ほか

(イ) 京町家キット等の販売

- ① 京町家等の組立式キット (榊さんけい)

(2) 景観・まちづくり大学等

住民の主体的な地域まちづくり活動の展開に向けて、住民が自らの居住する地域を理解し、魅力あふれる安心・安全なまちづくりを自らの役割として自覚し、地域ごとの具体的な課題解決に向けた取組を進める必要がある。

そのため、令和6年度は、引き続き、まちづくりの担い手育成を目指し、京都のまちの成り立ちや、様々な時代背景での人々の営み、その中で育まれたまちづくりの智慧など、まちづくりに取り組むうえでの基礎的な知識等を習得する講座を実施した。

京町家の保全・再生では、京町家の所有者、居住者を主な対象としつつ、居住や利活用を検討している方、京町家でのからしに関心を持つ方等にも参考となる、実践を重視したカリキュラムを中心とし、京町家の継承等に係る基本的な課題解決と京町家の魅力の普及を図った。

ア 京のまちづくり史連続講座

まちづくりに関心の高い市民、学生、専門家を対象に、京都の景観形成とまちづくりの歴史を学び、京都の景観形成に資するまちづくりに対する理解を深めた。

令和6年度は対面講座を基本に、オンラインによる受講も併用して実施した。

※全8回 有料 1回1,000円（通年受講は前期・後期各2,200円）※学生はそれぞれ半額

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R6. 5. 24	京都のまちと山紫水明 一人の暮らしと風景のつながりー	中嶋 節子（京都大学大学院人間・環境学研究科 教授）	43
R6. 6. 28	京都の川 ー水とのつながりが暮らしを育むー	鈴木 康久（京都産業大学現代社会学部 教授）	43
R6. 8. 9	路地から見る京都のまちづくり ー時代を超えてつながる空間とコミュニティの再生ー	森重 幸子（京都美術工芸大学建築学部 教授）	47
R6. 9. 14	番組小学校と学区のつながり ーまちづくりのための近代京都の教育史を発掘するー	林 潤平（京都市立学校歴史博物館学芸員）	38

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R6. 10. 18	京都というまちの色 ―景観デザインから見た公共空間の色彩―	藤本 英子（京都市立芸術大学 名誉教授）	36
R6. 11. 13	京都の祭礼における御旅所の歴史と役割 ―大阪との比較もあわせて―	本多 健一（立命館大学 研究員）	29
R7. 1. 31	京都の産業 ―職住一体の暮らしと生業―	滋野 浩毅（京都産業大学現代社会学部 教授）	31
R7. 2. 28	京のまちなみと町式目 ―町家と消防とまちづくり―	丸山 俊明（住環境文化研究所）	44
合計			311

イ まちあるき講座

菊浜学区において、そのまちを歩き、地域の方へのヒアリングを行い、グループワークを行うことで、まちづくり活動に役立つ基礎的な考え方を実践的に学ぶとともに、実際に行われているまちづくりに対する理解をより深め、地域の資源をどのようにまちづくりに生かしていけるか考える機会となった。

※全1回 有料 一般1,000円 学生500円（高校生以下無料）

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R6. 11. 23 R6. 11. 24 (連続講座)	まちの見方を学ぶ ―みんなの視点や情報を組み合わせてミッションを解こう♪―	吉田 泰基 小林 明音 白水 育世 (（一社）マチノミカタ)	一般 2 大学生 5 小学生 1
合計			8

ウ 地域まちづくりセミナー

令和4年6月にひと・まち交流館 京都（以下「当館」）地下1階に移転した、京安心すまいセンターと合同で、子育て世代の親子を対象に、「すまいとまちフェスタ」を開催し、当財団は、初音学区自治連合会副会長の富名腰 隆氏を講師に、京都特有の元学区の成り立ちや町内会での暮らし・行事を紹介する「京都のまちぐらし講座」、同志社大学学生団体 edunka の学生の協力による地蔵盆体験及び畳店店主による「ミニミニたたみづくり」を開催した。

また、上記催しにおいて、京安心すまいセンターが実施した「おうちバッグでまちづくり」では、センター同士の連携を図るため、京のまちかどボランティアガイドにより京都のまちの説明を行うとともに、作成したキットを当館1階・京のまちかどコーナーに展示し、子ども達が住みたい京都のまちを創造した。

※全1回 無料

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R6. 8. 4	「京都の元学区のくらしと行事」	富名腰 隆（初音学区自治連合会副会長）	30
	地蔵盆体験	協力：同志社大学学生団体 edunka の学生	25
合計（のべ人数）			55

エ 京町家再生セミナー

主に京町家の所有者、居住者を中心として京町家に関心のある方を対象に、京町家の暮らし、活用、継承への実践的知識を深めるため、京町家の維持管理、改修、活用、相続等について専門家による講義を行った。

京町家を会場とした講座を含め、対面での開催を基本とし、オンラインでの開催を併用して実施した。

※全8回 有料 1回 500 円（座学）、「京町家の台所」「京町家が支える食文化」現地受講 1,000 円

開催日	講座名	講師（敬称略）	出席者
R6. 5. 30	京町家の保全・継承とまちづくり	高田 光雄（まちセン理事長、京都美術工芸大学副学長）	45
R6. 6. 21	祇園祭と京町家	村上 忠喜（京都産業大学文化学部京都文化学科教授）	20
R6. 7. 25	京町家の特徴を生かした再生・活用の考え方	松井 薫（一級建築士事務所「住まいの工房」、京町家情報センター代表）	49
R6. 9. 26	猫と暮らす京町家	美濃羽 まゆみ（手づくり暮らし研究家）	15
R6. 10. 31	京町家における茶室の影響	桐浴 邦夫（建築史家、京都建築専門学校副校長）	45
R6. 11. 24	京町家の台所―食から広がる・つながる暮らしと仕事―	会場：キッチンみのり 山上 公実（キッチンみのり主宰、料理研究家）	14
R7. 2. 6	「京町家カルテ委員長が見た住まいの形―構えと備えの民家史―」	大場 修（立命館大学衣笠総合研究機構教授、京町家カルテ委員長）	49
R7. 3. 9	「京町家が支える食文化―種麹づくりを生業として―」（定員 20 名）	会場：菱六もやし 助野 彰彦（株式会社菱六 代表取締役社長）	32
合計			269

オ 三都連携事業

三都連携事業は、京都市・大阪市・神戸市の住情報センターによる共同事業で、各都市の住情報センターに寄せられる相談等を共有し、今後の事業等に活用することを目的としている。

各都市が回り持ちで幹事を担当し、年1回程度、全体での勉強会等を開催している。令和6年度の当番都市は大阪市であった。

令和6年度は2回の全体会議において災害時の住まいに関する相談業務における三都市の住情報センターの情報共有等を行ったほか、全体勉強会として「被災後の生活再建と住情報」をテーマに、仙台市等で取り組まれている「災害ケースマネジメント」を事例に、被災者支援のあり方について考察するシンポジウムを開催した。

また、3月には、非公開で「災害時の支援制度」「応急危険度判定」の勉強会が実施された。

【シンポジウム概要】

- ・日 時：令和6年11月16日（土）13時30分～16時
- ・会 場：大阪市立住まい情報センター（大阪市北区天神橋6-4-20）
- ・参加者：現地46名、オンライン15名 計61名
- ・内 容：基調講演・話題提供・トークセッション

カ 各種団体等との協働セミナー等

景観・まちづくりに関わる、地域、市民団体、職能団体、NPO法人、学会、他都市の中間支援組織等との協働により、セミナー等を共催した。

(7) 景観エリアマネジメント講座

まちづくりに関わる様々な分野の専門家を対象に、京都の景観に対する幅広い知識と高い見識を持つ人材を養成することを目的として、その知識を得るための基礎講座、フィールドワークを中心に地域での活動に必要なスキルを得るための実践講座をNPO法人京都景観フォーラムとの共催事業として開催した。

・基礎講座（全8回）

開催日	内容	講師（敬称略）
R6. 7. 20	基礎理論(1) 景観とは何か？	堀 繁（東京大学 名誉教授）
R6. 8. 31	基礎理論(2) 景観のマネジメント WS1：まちのことを調べてみよう	宗田 好史（関西国際大学 教授）
R6. 9. 28	景観と都市形成 FW：景観視点でまちを見てみよう	中嶋 節子（京都大学大学院 教授）
R6. 10. 19	まちとまちなみ WS2：まちの景観特性を考えよう	森重 幸子（京都美術工芸大学 教授） 魚谷 繁礼（魚谷繁礼建築研究所／京都工芸繊維大学特任教授）
R6. 11. 16	公共空間のデザイン WS3：私が景観エリアマネージャーになったら	山口 敬太（京都大学大学院 准教授）

開催日	内容	講師（敬称略）
R6. 12. 21	京の生活文化	町田 香（京都芸術大学 非常勤講師） マレス エマニュエル（京都産業大学准教授） 笹岡 隆甫（華道「未生流笹岡」家元）
R7. 1. 25	自然資源と観光資源の活用	深町 加津枝（京都大学大学院 准教授） 村上 佳代（文化庁 文化財調査官） 阿部 大輔（龍谷大学 教授）
R7. 2. 15	景観まちづくり・修了式	高田 光雄（京都美術工芸大学 教授）

・実践講座（全8回）

開催日	内容	講師（敬称略）
R6. 6. 29	オリエンテーション GW: 地域の基礎資料の収集、課題 の想定	—
R6. 7. 21	景観を理解する GW: 現地調査、課題設定	堀 繁（東京大学 名誉教授）
R6. 8. 10	先輩エリマネの事例 GW: ビジョンとプロセス検討 1	—
R6. 9. 14	地域のまちづくり事例 GW: ビジョンとプロセス検討 2	—
R6. 10. 12	GW 発表会 WS: 実践における課題と対策	—
R6. 11. 9	個人レポートゼミ 1	—
R6. 12. 14	個人レポートゼミ 2	—
R7. 2. 15	個人レポート発表会・修了式	—

(イ) 文化財マネージャー育成講座

京都市、認定NPO法人古材文化の会、一般社団法人京都府建築士会とともに「京都市文化財マネージャー育成実行委員会」を構成し、同委員会の主催により、歴史的建造物の調査・保存・活用やまちづくりを実践する文化財マネージャー（建造物）を育成することを目的とする「京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」、文化財マネージャー（建造物）のスキルアップを目的とする「京都市文化財マネージャー育成講座スキルアップ講座」並びに「京都市文化財マネージャーアドバンスト講座」を開催した。

なお、第14期講座は、令和6年4月に開講し、令和6年10月に終了した。

・第14期文化財マネージャー育成講座（建造物）

開催日	内容	講師（敬称略）
R6. 4. 13	開講式・オリエンテーション 保存・活用概論	中川 等（古材文化の会） 高田 光雄（京都美術工芸大学）
R6. 4. 27	文化財保護法	岡本 公秀（文化庁）
	循環型社会と保存・活用	浅岡 美恵（弁護士）
	住まいの建築	中川 等（古材文化の会）
R6. 5. 11	京都市の文化財行政	森尾 勇三・石川 祐一（京都市）
	歴史的建造物の継承と暮らし	秦 めぐみ（秦家住宅）
	京都市登録有形文化財・秦家住宅 重要文化財・杉本家住宅の見学	
R6. 5. 25	寺社建築	菅澤 茂（工学院大学）
	歴史的建造物の技法／瓦葺	寺本 光男（瓦葺職）
	歴史的建造物の技法／左官	浅原 一郎（左官職）
	修了課題の説明、演習1の説明	
R6. 6. 8	演習1 指定文化財の修理現場見学 妙法院	島田 豊・引間 俊彰（京都府教育庁）
R6. 6. 22	庭園の様式	仲 隆裕（京都芸術大学）
	近現代建築	石田 潤一郎（武庫川女子大学）
	指物の技法	大谷 晋賢（伝統工芸士）
R6. 7. 6	保存・活用のマネジメント	宗田 好史（関西国際大学）
	歴史的建造物の再生理念	藤岡 龍介（建築家）
	観光活用とその課題	土橋 聡憲（京都市）
	歴史的建造物の調査と評価	中川 等（古材文化の会）
R6. 7. 20	演習2 歴史的建造物調査	建築家と京都市文化財マネージャー
R6. 8. 3	歴史的建造物の耐震補強	井上 年和（京都美術工芸大学）
	保存活用と再生設計/構造設計	能戸 謙介（建築家）
	保存活用と再生設計/意匠設計	内田 康博（京町家再生研究会）
	演習2の中間報告 修了課題の中間報告	
R6. 8. 24	歴史的環境の整備	山崎 正史（立命館大学）
	保存・活用とまちづくり /山田家住宅と醍醐	徳光 都妃子（建築家・文マネ）
	保存・活用とまちづくり /旧三上家住宅と宮津	岩田 信一（建築家・文マネ）
	演習2の講評、演習3の説明、 修了課題の中間報告	
R6. 9. 7	演習3 保存・活用相談	建築家と京都市文化財マネージャー
R6. 9. 21	建築基準法適用除外制度・景観法	向井 愛・高橋 諒（京都市）
	リノベーション建築の評価	古賀 芳智（建築家）
	演習3の講評 修了課題の中間報告	

開催日	内容	講師（敬称略）
R6. 10. 5	歴史的建造物と防災対策	益田 兼房（日本イコモス国内委員会）
	歴史的建造物の継承と税金	辻本 尚子（税理士）
	修了課題中間発表会	
R6. 10. 26	修了課題発表会 講座修了式・修了証書授与	

・文化財マネージャー育成講座スキルアップ講座

開催日	名称	講師（敬称略）
R6. 11. 16	文化財防災の現状と課題	高妻 洋成（独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター長、奈良文化財研究所参与）
	文化財マネージャーの活動発表	
R7. 2. 11	京都の庭園と庭師の役割 ※京都を彩る建物や庭園所有者 交流事業との合同開催	町田 香（京都芸術大学准教授） 梅野 星歩（株式会社梅鉢園代表）

・文化財マネージャー育成講座アドバンス講座

開催日	内 容	講 師（敬称略）
R6. 12. 7	痕跡による復元的考察	中川 等（古材文化の会）
	古文書等による復元的考察	
R6. 12. 21	ゆかりの評価 （講義、見学及び意見交換）	松永 尚（古材文化の会）
R7. 1. 11	現代建築の歴史	石田 潤一郎（武庫川女子大学）
	文化財としての現代建築	石川 祐一（京都市）
R7. 1. 25	町家建築の意匠と材料	日向 進（京都工芸繊維大学名誉教授）
	銘木と材料同定	中川 典子（株式会社千本銘木商会）
R7. 2. 8	古文書の基礎知識	伊東 宗裕（元京都歴史資料館員）
	行政資料の基礎知識	若林 正博（京都府立京都学・歴彩館）
R7. 2. 22	襖絵の基礎知識	安井 雅恵（京都市）
	唐紙、壁紙の基礎資料	上田 富士子（株式会社丸二） 千木良 礼子（京都市）
R7. 3. 8	まちづくりと地域再生	金野 幸雄 （元篠山市副市長、国土計画家・コンセプター）
R7. 3. 22	歴史的建造物の維持	風月 匠幹廣（古材文化の会）
	歴史的建造物の修理と補助	菅澤 茂（工学院大学）

2 市民等の活動に対する総合的支援

(1) 地域活動支援

地域の魅力向上や課題解決に向けて、景観まちづくりやまちのルールづくり、防災まちづくりに取り組む地域を支援し、魅力あふれる安心・安全な地域づくりを進めた。

ア 景観・まちづくり相談

当財団職員が、自主的なまちづくり活動に取り組もうとしている地域に対して、様々なアドバイスや各種情報提供等を行い、活動の継続、活動内容の更なる充実につなげた。

相談・支援件数 382件（令和5年度 341件）

相談・支援内容	令和6年度 件数	令和5年度 件数
地域まちづくり活動、地域の現状等	95	110
マンション問題	1	2
当財団事業概要（まちづくり活動支援事業等）	6	7
景観・まちづくりに関するルール（式目、地区計画、地域景観づくり協議会、建築協定等）	118	78
法律、条例関係（都市計画法、景観法、建築基準法等）	4	29
防災まちづくり	182	149
まちづくりコーディネート事業	288	259
その他（地域課題、講座、学生対応、視察等）	31	28
合計	725	662

※ 相談・支援1件につき、複数の相談・支援内容を含む場合がある。

イ まちづくり専門家派遣

課題に応じて、まちづくりの専門家を地域に派遣し、地域活動を支援した。

※京都市からの委託事業における専門家派遣は別途記載

地区等	支援内容
中京区 本能学区	コロナ禍前後のまちの変化を確認するため「防災まちづくり計画」策定中の令和元年以来となる「防災まちあるき」を実施し、企画・運営・進行の支援を行い、防災意識の機運の醸成を図った。
伏見区 深草藤森前町及び 深草鳥居崎町	それぞれの地区において、宿泊施設の立地について懸念されており、予防的措置として建築協定の締結等を検討したいという意向がある。そのため、建築協定制度の概要について説明するため、それぞれ専門家を派遣し、まちセン独自に相談を実施した。（3/8、3/30の2回）

ウ まちづくり活動助成

まちづくり活動の立ち上げや継続的に取り組む地域に対して、運営活動費（活動広報物の作成や地域での勉強会の開催、地域景観づくり計画書の印刷等）を助成する制度である。

今年度は、市街化調整区域での地区計画策定を目指す鞍馬二ノ瀬地区及び大原戸寺町地区に対して助成を行った。

地区等	支援内容
左京区 鞍馬二ノ瀬地区	地区計画の周知に係る配布物の印刷、素案策定に向けた検討会の資料作成や会場費等に対して助成を行った。
左京区 大原戸寺町地区	地区計画（変更）の要望書提出後、地域独自でまちづくりルールを策定するため、配布物や会議資料の印刷、講師謝金に対して助成を行った。

エ 専門家育成講座

当財団登録専門家が、互いに経験を共有することにより、今後の地域支援に生かすこと、また、当財団コーディネーターが、専門家の知見に触れることにより、今後の地域支援や専門家派遣に向けた協働のあり方を考えることを目的として、コーディネーターと専門家、専門家同士の交流を促進する機会とした専門家育成講座を実施した。

令和6年度は、新たに近年、登録・派遣された専門家を主な対象として、長く地域まちづくり支援に関わってきた経験豊かな登録専門家や地域まちづくりでの専門家の在り方を研究する大学院生も参加し意見交換会を実施した。意見交換では、社会状況の変化や担い手不足を踏まえ、今後のまちづくり活動支援において、区役所・京都市まちづくりアドバイザー等との情報共有・連携強化など、当財団の専門性を生かしつつ、地域の実情に合わせた柔軟かつ包括的な支援の必要性などが議論された。

【開催概要】

- ・日 時：令和7年3月3日（月）15時～17時
- ・参加者：専門家5名、大学院生1名
- ・内 容：当財団から話題提供・意見交換

オ 地域主体のまちづくり支援業務（京都市受託事業）

地域の多様な魅力と個性を生かし、新たな価値の創出に取り組んでいる地域や、地区計画や建築協定、地域景観づくり協議会などの制度を活用し、これからまちづくりを推進しようとする地域に対して、地域活動の充実を図るとともに、様々な都市計画制度の普及啓発と活用推進に向け、専門家派遣等の支援を行った。

令和6年度は、地域主体のまちづくり支援業務として契約を受託し、その枠組みの中で、景観政策課、建築指導課、まち再生・創造推進室、都市計画課に係るまちづくり支援を実施した。

(7) 景観づくり支援（景観政策課）

地域の個性を活かした魅力ある景観まちづくりを一層推進するため、各地域景観づくり協議会が実施する意見交換会等の活動、地域が行う夜間景観の検討の取組、地域のビジョンやルールづくりに対し専門家の派遣を行い、今後の進め方などについて助言を行うとともに、情報収集や専門家への情報提供等の支援を行った。

① 各協議会及び今後制度活用を検討する地域への専門家派遣等の支援

地域が行う夜間景観の検討の取組や屋外広告物のルールづくり、また、設立間もない地域景観づくり協議会に対して、今後のまちづくり活動の方針や取組を検討する活動に専門家の派遣を行った。

地区等	支援内容
東山区 祇園新橋 景観づくり協議会	屋外広告物（のれん、看板等）のガイドラインの策定に向け、現在掲出されている広告物の評価を行うとともに、評価結果をもとに、広告物の構成要素（色、デザイン、書体等）の体系化（プロファイル作成）に対して専門家派遣を行い、祇園新橋らしい屋外広告物について検討を行った。
右京区 鳥居本町 景観まちづくり協議会	専門家派遣初年度の令和6年度は、協議会理事の取組意向や地域の景観資源や課題、また事前協議の進め方などに対する意見を継続的にヒアリングし、京都市、専門家と密に連携を取りながら、協議会の運営基盤構築に向けてサポートした。

② 景観まちづくりの機運醸成に資する「主体者をつながる機会・場」の構築に向けた調査業務

多くの地域でまちづくりの担い手不足が課題となっているなか、様々な形で地域に関わる人たちが、今後、主体的にまちづくりに参画することへの支援を目的として、新たなまちづくりの担い手と地域の自治組織間双方の関係構築のプロセスや、まちづくりの参画につながることを推進するための手法等の調査・分析、企画の検討を行った。

令和3年度から令和5年度まで実施した「地域主体のまちづくりのりサーチ及び課題解決に向けた検討業務」では、これまで地域と関係を持っていなかった人が、地域と関わりを持つようになった経緯・動機や、地域に関わることにつながった仲介機能などを調査し、仲介機能に期待されるサポートや役割等の結果をもとに、次年度以降の取組に向けて検討を行った。

令和6年度は、これまで区役所等が主催するまちづくりカフェ等に参加したことのある団体や個人（以下「団体等」）を主な対象として、地縁組織等とは独立しつつ、継続して公共的な活動に取り組む団体等に対してヒアリングを行い、新しい形のまちづくりの担い手であるそれら団体等の活動の視点や取組継続の秘訣、地縁団体・行政との関係性等を調査するとともに、過年度の調査で一定の必要性が認められた「新たな主体者が『中間支援機関』や別の主体者と気軽かつ自由につながる機会・場の構築」に関する見解をリサーチした。加えて、それらの調査結果を分類し、今後の景観まちづくりの支援の方向性や施策について検討を行った。

団体名	行政区	活動目的、視点、課題等
朱八自主防災組織専門協力員 (防災寺子屋)	中京区	・地域の防災活動の推進 ・特定の拠点で目標を達成しないといけないという縛りはないので、できる地域で活動する。
中京・花とみどりの会 京・みつばちの会	中京区	・まちなか緑化の推進 ・全て自分一人でやらずに、任せられることは人に任せる。
一乗寺ドットネット 商店会	左京区	・地域の商業振興 ・自己負担が多くても、何か効果があると感じるので続けている。関係者同士が「やりがい」だけでつながっているというのは非常に大切。
ルーミー図書館	東山区	・絵本の貸し借りを通じて、ママの交流、多世代の交流機会の創出。 ・お金のためではなく、自己実現や人のためにやるといった、自分なりの“関わりしろ”がある人がこのような取組に合う。
ANEWAL Gallery	上京区	・場所の運営と横のつながりを豊かにすることを目指して、プラットフォーム的に、アート、文化活動を展開する。 ・経済的安定がないと、(担い手や後継を) 育てることも難しい。
同志社大学 SAP (Shinmachi Activate Project)	上京区	・地域交流、地域活性化。 ・強制参加ではないので参加しやすい。 ・サークルがなければ地域に関わるきっかけづくりが難しく、大学生が町内会に入るのはハードルが高い。
白川まちづくり会社	東山区	・商店街の活性化 ・地域の人を巻き込まないと進まないと考え、協議会の設立を企図。 ・地域の中に、仲介してくれる人がいることが重要。外の人が参加しやすい。
マミーズアップ	西京区	・ママが気軽に来られる場づくり。 ・「いつでもやめてもいい」と、身軽にプレッシャーなく取り組んでいる。 ・自分の利益のために活動していない。 ・地域での活動はテリトリー意識が強いと感じる。客の取り合いのように思っている人が多いが、テリトリーの中で納まるのはもったいない。
京都観光文化を考える会・都草	上京区	・京都を愛する人々が生涯学習の場を創造し、ボランティア活動を通じて地域社会の発展に貢献する。 ・理事や執行部の成り手を、継続的に確保していくことが課題。

③ 「京都市地域景観まちづくりネットワーク」の活動支援

京都市に認定された協議会で構成される「京都市地域景観まちづくりネットワーク」の定例会議の企画・運営を支援し、各地域間の情報及び課題の共有を行った。

京都市地域景観まちづくりネットワーク構成団体（計 16 地区）	
（上京区）	笹屋町一丁目景観まちづくり協議会
（中京区）	先斗町まちづくり協議会、姉小路界限まちづくり協議会、明倫自治連合会、京の三条まちづくり協議会
（下京区）	修徳景観づくり協議会、膏薬辻子まちづくり協議会
（東山区）	西之町まちづくり協議会、一念坂・二寧坂 古都に燃える会、祇園新橋景観づくり協議会、祇園町南側地区協議会、祇園商店街振興組合景観委員会
（右京区）	仁和寺門前まちづくり協議会、嵐山まちづくり協議会、鳥居本町景観まちづくり協議会
（西京区）	桂坂景観まちづくり協議会

（イ）建築協定等を活用したまちづくり専門家派遣（建築指導課・まち再生・創造推進室・都市計画課）

建築協定の締結又は地区計画の策定等を目指してまちづくり活動を行う地区を対象に、専門家を派遣し、地域住民の主体的な取組に対して支援を行うとともに、建築協定地区 6 4 地区が加入する京都市建築協定連絡協議会の活動支援を行った。

① 専門家派遣

新たに建築協定制度又は地区計画制度等の活用を検討する地域等へ、専門家の派遣を行った。

地区等	支援内容
左京区 大原戸寺地区	地区計画（変更）の要望書提出に向けて、内容の周知及び合意形成を支援するため専門家派遣を行った。

② 建築協定連絡協議会への活動支援

総会、役員会、研修会などの活動支援や、協議会の活動を対象とした補助金の交付を行った。また、協定更新時における実質的な支援を行うため、活動費の助成を更新のための準備活動にも使えるよう、更新時補助金制度の見直しを行った。

今年度は、運営委員会の後継者不足等の課題解決の一助とするため、近畿大学総合社会学部教授の久先生をお迎えし、「みんなで楽しくまちづくり～これからの地域活動のヒント～」をテーマに研修会を開催した。また、昨年度に引き続き、各地区運営委員会における建築計画の審査事務の円滑化及び省力化を図るため、審査時に用いるチェックリストづくりを実施した。

（ウ）路地再生支援（建築指導課）

京都市の連坦建築物設計制度及び接道許可制度の拡充を受け、既存制度では建替え等が困難だった敷地の建物更新を図る路地再生事業の支援を行った。

① 地域への専門家派遣等の支援

京都市から下記 2 地域の路地への専門家派遣に対する支援の相談を受けたが、京都市委託事業の専門家派遣には至らなかった。

地区等	支援内容
左京区川東学区の路地	左京区川東学区にある路地を道路化（袋路２項又は３項指定）する取組支援の相談を受けた。路地関係者の合意形成に向けて、路地専門家の派遣制度活用を検討を行ったが、派遣に至らなかった。
中京区朱雀第七学区の路地	中京区朱雀第七学区の路地を道路化（袋路２項又は３項指定）する取組支援の相談を受けた。専門家の行う支援として、合意形成における制度説明や戸別訪問の補助等は可能な旨を伝え、今後の専門家派遣についての検討を行った。

カ 防災まちづくり専門家派遣（京都市受託事業）

密集市街地内において防災まちづくりに取り組む地域に専門家を派遣し、防災まちづくり計画の策定や計画実現のための各種活動に対する支援を行った。

地区等	状況	支援内容
上京区 室町学区	防災まちづくり 計画策定	防災まちづくりマップの改訂や、地域の集合場所である「さくら広場」の改修等、様々なプロジェクトや、それらの取組の情報発信により、住民の防災に対する気運の醸成や啓発を進め、防災まちづくり計画策定に向けた地域主体の防災まちづくりの活動を支援するため、専門家派遣を実施した。 （防災まちづくりの取組２年目）
下京区 植柳学区	防災まちづくり 計画策定	「防災まちづくり計画」の策定に向け、専門家を派遣した。総合防災訓練や防災まちあるきを通して地域の情報収集や課題の抽出を行うとともに、それらの取組をニュースとして発行するなど、防災に対する機運の醸成と取組の周知を図った。 （防災まちづくりの取組１年目）
東山区 新道学区	防災まちづくり 計画策定	路地・まち防災まちづくり計画の策定及び当該計画の実現等を目指してまちづくりを継続的及び計画的に行うため、まちづくりに関する住民等への説明及び啓発活動支援、まちづくりに関する調査活動支援、まちづくりに関する自治連合会等の運営支援を行った。 （防災まちづくりの取組１年目）
右京区 安井学区	防災まちづくり 計画策定	防災まちあるきや全体研修会などの取組を通して、住民の防災に対する気運の醸成や啓発を進めるとともに、地域の課題の共有等、防災まちづくり計画策定のための基礎的な情報収集に取り組み、今後の防災まちづくり計画策定に向けて専門家派遣による支援を行った。 （防災まちづくりの取組１年目）

地区等	状況	支援内容
上京区 出水学区	防災まちづくり 計画策定済	令和6年度は、街区計画において保全が望ましい路地と定めた路地等の中で、最も事業実現性が高い路地について「路地整備計画」の作成を行った。また、「密集市街地のこみち改善事業」の実現に向けて、学区内の2項道路から選定の候補となる整備路線の抽出や、関係地権者等に対して、事業内容の周知及び意向調査等について、専門的・技術的支援を行った。 (防災まちづくりの取組9年目)
上京区 東橋詰町 (滋野学区)	路地整備計画 作成済	路地全体で防災性、安全性を向上(袋路の解消、避難経路の確保、沿道建物の防火性能の向上等)させることで、連坦建築物設計制度や接道許可制度の活用により、袋路内での再建築や大規模修繕を実現可能とし、袋路の避難安全性の向上等を図るため、5軒の建物(一所有者)で構成される当該地を最も実現性が高い路地として、路地整備計画の作成に対する支援を行った。

(2) 京町家再生支援

ア 京町家なんでも相談

京町家の保全、再生、活用について、京町家所有者・居住者の多くが様々な悩みを抱えている。本事業は財団の京町家事業の総合窓口として、相談者に寄り添い、悩みに対して複合的な課題の整理や具体的な方策を示すことにより課題解決につなげた。

(7) 一般相談 435件(令和5年度実績 507件)

当財団職員が一次対応として、相談内容に応じて各種公的制度、専門相談及び団体紹介を行った。

(4) 専門相談 54件 ※自主事業2件、受託事業52件(令和5年度実績 49件)

大工、建築士、不動産事業者等の実務者による専門相談を行った。平成30年10月以降、専門相談は京都市委託事業「京町家相談員制度等の運用業務」として実施している。令和6年度に委託事業として実施した専門相談の件数は52件であり、自主事業と合わせて54件となる。

【相談項目内訳】

令和7年3月31日時点

相談項目	件数
改修・修繕	160
活用	103
賃貸	23
売買	32
耐震、防火	16
相隣問題	33
相続、所有権関係	14
維持・管理	16

相談項目	件数
資金、公的な支援制度	90
その他（視察、協力依頼、情報提供など）	151
京町家まちづくりファンド	37
京町家カルテ	33
京町家等継承ネット	26
合計	734

※複数選択のため、相談件数の合計とは一致しない。

（参考）京町家等継承ネット事業としても相談対応を行っている。

※令和7年1月に「京町家・空き家なんでも相談会」を開催した。

（ウ）京町家相談員

令和6年度は、相談対応を充実させるため京町家相談員の大工について募集し、新たに9名を追加した（京町家相談員 計94名）。

スキルアップ研修（講演会）として、新制度の内容や所有者から多く相談が寄せられる相隣、境界問題をテーマとした「京町家をめぐる3つのトピック」を開催し、見学会として、大型町家の複合施設としての活用に向けた改修事例の「京町家再生見学会」を開催した。

【スキルアップ研修開催概要】「京町家をめぐる3つのトピック」

会場：京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム

開催日	内容	講師（敬称略）	出席者
R6. 12. 5	① 講座「空き家税の京町家への影響を考える」	京都市行財政局税務部税制課 担当係長 大田 衛	京町家相談員 11名 専門家・行政職員等 33名 計44名
	② トピック「境界問題を回避するには」	土地家屋調査士 京町家相談員 浅見暢一、三田村 和幸	
	③ 施策説明「京町家とバリアフリー条例」	京都市都市計画局建築指導部建築審査課 バリアフリー推進係長 立石 涼一	

【京町家再生見学会開催概要】

会場：堀池町の京町家

開催日	内容	講師（敬称略）	出席者
R7. 2. 21	京町家再生見学会 会場：堀池町の京町家（東山区）	京町家相談員（大工） 小野 敏明 株式会社ひがしやま企画代表取締役 宮下 拓己	京町家相談員 14名 専門家・行政職員等 27名 計41名

イ 京町家データベース

平成20～21年度京町家まちづくり調査によって調査した約48,000件の京町家等を元にIDを付与した京町家をエクセルファイルにて管理し、あわせてGIS（地理情報システム）を用いて、地図上にて地理的な情報として管理・出力している。

個々の京町家について、専門相談、京町家カルテ、京町家まちづくりファンド、建物調査報告書の作成等の相談・対応履歴を入力し、年度毎、個々の京町家に関する情報を一元的に管理する京町家データベースを運営している。

令和6年度に京都市、立命館大学、当財団の三者で実施した「京町家状況調査」（後述）にて判明した、京町家の滅失・残存状況を京町家データベースに反映するため、準備・調整を行った。

ウ 京町家等継承ネット

京町家等の適切な継承を促進することを目的として、平成26年11月21日、京町家継承ネット（代表 高田光雄 京都美術工芸大学教授、京都大学名誉教授）が設立された。当財団は事務局として、京町家継承ネットを構成する京町家等の継承に関わる多くの団体、所有者や居住者とともに、京町家等の保全・継承に取り組んでいる。

京町家・空き家なんでも相談会を、令和7年1月に開催した。また、京町家等継承ネット設立10周年記念事業として、特別講演会を開催した。

(7) 運営に関する行事

開催日	内 容	出席者
R6. 4. 18	京町家等継承ネット 相談 ・ 個別の相談案件に関する相談対応	8 名
R6. 4. 30	京町家等継承ネット コア会議 ・ 大型町家継承モデルプロジェクトの進捗等	7 名
R6. 6. 20	京町家等継承ネット第11回全体会議 ・ 全体会議・前年度事業報告及び決算、今年度事業計画等の承認	39 名
R6. 8. 6	京町家等継承ネット コア会議 ・ 京町家所有者の継承意向を支援する方策について	13 名
R6. 10. 16	京町家等継承ネット 相談 ・ 個別の相談案件に関する相談対応	11 名
R7. 2. 27	京町家等継承ネット コア会議 ・ 寄附受納スキーム検討	5 名

(4) 普及・啓発の取組

① 京町家・空き家なんでも相談会の開催

開催日	会場	京町家相談員数	相談件数	
R7. 1. 17	京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム 1・2	12 名	専門相談	4 件
			一般相談	3 件
R7. 1. 18		14 名	専門相談	9 件
			一般相談	1 件

② 教育研修

京町家等継承の専門的相談の習熟を図るため、会員向けの特別講演、会員及び一般向けの特別講演会を実施した。

・第11回全体会議・特別講演

全体会議開催に合わせて、特別講演を実施した。

会場：京都市景観・まちづくりセンターワークショッブルーム1・2

開催日	内容	講師（敬称略）	参加者
R6. 6. 20	「多様な地理空間情報を活用した 京町家の滅失推定に関する研究より」	・矢野 桂司（立命館大学教授） ・井上 萌来（立命館大学）	59 名

・設立10周年記念 特別講演会

京町家等継承ネット設立10周年を記念して、特別講演会を開催した。

会場：ヒューリックホール京都（立誠ガーデンヒューリック京都1階）

開催日	内容	講師（敬称略）	参加者
R6. 11. 20	話題提供 「建築文化の振興について」	清永 洋平 （文化庁 文化財調査官（建造物担当））	98 名
	講演 「ニューヨークから町家の未来 を守る」	稲垣 光彦 （ワールド・モニュメント財団 日本代表）	
	トークセッション	清永 洋平、稲垣 光彦 高田 光雄（京町家等継承ネット 代表）	

(ウ) 支援システムの開発に係る取組

大型町家の保全・継承に向けて、個別の相談対応及び支援システムの開発を実施した。

① 大型町家継承モデルプロジェクト

京町家なんでも相談等で受けた相談案件の大型町家について、京町家等継承ネットにて継承・活用提案や公的指定のための往訪相談等を行った。

② 歴史的建築物の保全・継承に向けた公民連携による方策の意見交換会

京町家をはじめとした歴史的建築物の保全及び継承の一層の促進を目的として、公民連携による今後の方策について意見交換の場を設けた。

【意見交換会】

開催日：令和6年8月6日

議 題：京町家所有者の継承意向を支援する方策（継承意向把握、寄附受納等）について
参加者

所 属		氏名（敬称略）
京都弁護士会	公害対策・環境保全委員会 副委員長	小町 崇幸
京都司法書士会	空き家等問題対策委員会 委員長	石田 郁雄
(公社)京都府不動産鑑定士協会	会長	辻本 尚子
(一社)京都府不動産コンサルティング協会	相談役	西村 孝平
(一社)京都府不動産コンサルティング協会	副理事長	山下 善彦
京町家居住支援者会議	事務局長	吉田 光一
(一社)相続相談センター	理事長	井上 誠二
京都市まち再生・創造推進室	京町家保全継承課長	北川 和代

所 属		氏名（敬称略）
京都市まち再生・創造推進室	担当係長	前田 あけみ
京都美術工芸大学 (公財)京都市景観・まちづくりセンター	教授 理事長	高田 光雄

③ ポータルサイト MATCH YA の活用

ポータルサイト MATCH YA を活用し、京町家等の担い手となる入居者・事業者の掘り起こし、京町家所有者の利活用意向の醸成を図った。

京町家の多様な活用事例を紹介している STORIES では、空間の総合プロデュースを行う企業の京都営業所の記事 1 件を追加し、計 17 件を掲載している。

④ 相談体制の強化

京町家への企業誘致を推進するために、活用希望者への不動産情報の提供等のサポートを行った。

エ 京町家に関する学習支援

京都市立西京高等学校附属中学校での京町家授業支援（家庭科：「京町家について知ろう」）中学 2 年生及び 3 年生の家庭科の授業の一環で、京町家授業の支援を行った。

【概 要】

授業実施日①：令和 6 年 9 月 10 日、11 日、18 日

対 象：京都市立西京高等学校附属中学校 3 年生（40 名×3 クラス）

授業実施日②：令和 7 年 2 月 5 日

対 象：京都市立西京高等学校附属中学校 2 年生（40 名×3 クラス）

内 容：当財団より、京町家の成り立ちや造り、自然やまちとの関わり、暮らしの文化、京町家が置かれている現状等を説明した。生徒による意見交換やグループ発表を実施。

3 各種団体等との交流及び協働活動

ワールド・モニュメント財団（WMF）との連携

ワールド・モニュメント財団との連携を継続するとともに、京町家の魅力と現代的価値を海外に情報発信することで、海外の諸支援団体とのネットワークの形成を図る。

令和 6 年度は、京町家等継承ネット 10 周年記念特別講演会にて WMF の稲垣光彦日本代表に講演いただいた。

（参考）

京町家再生プロジェクト 第 1 期 釜座町町家（平成 23 年度）

第 2 期 旧村西家住宅（平成 24 年度）

第 3 期 四条町大船鉾会所（平成 28～令和元年度）

（受賞実績）

平成 30 年 9 月 2018 年ユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞最優秀賞受賞

令和 元年 9 月 2019 年ベスト・イン・ヘリテイジで発表、優秀賞受賞

4 歴史的建造物の保全、再生、活用に関する各種の支援及び普及、啓発

(1) 歴史的建造物の再生、活用助成関連事業

京都の歴史及び文化の象徴であり、都市居住を支えてきた京町家を育み、未来に伝えるため、寄附金を積み立て、その運用により、京町家の保全、再生、活用を促進し、京都固有の暮らしの文化、空間の文化、まちづくりの文化の継承・発展と町並み景観の保全及び創造、さらには地域経済の活性化を図ることを目的として、京町家まちづくりファンドを運営する。

ア 京町家まちづくりファンド委員会運営

令和6年10月21日 第52回京町家まちづくりファンド委員会開催

令和7年 3月31日 第53回京町家まちづくりファンド委員会開催

＜令和6年度 京町家まちづくりファンド改修助成事業の選定について＞

令和6年度は、京町家の改修1軒、通り景観の修景1件を選定した。

- ・昭和小路 ココナガヤ（東山区五条橋東四丁目）

- ・竹中庵の京町家3軒（左京区岡崎円勝寺町）

各案件の状況については後述する。

イ 京町家まちづくりファンドの普及啓発事業

(7) 京町家まちづくりファンドの情報発信

令和元・2・3年度に改修助成事業に選定した、吉田神楽岡旧谷川住宅群の記録集を作成し、改修や活用内容を広く発信するために、寄附者等へ送付した。

(4) 京町家まちづくりファンドWEBサイト及びSNSを活用した発信

京町家の改修や通り景観の修景の改修助成事業の進捗状況や、各プロジェクトに関連するニュース等について、WEBサイト、Facebook グループページ及びInstagramにて発信した。また、改修助成事業で助成した京都市南区伊藤邸（平成23年度選定）のインタビュー記事を、WEBサイトで公開した。

(ウ) 「町家の日」への参画

当財団の後援事業である「町家の日」には、京町家まちづくりファンドで助成した京町家5軒が参加した。また、ご寄附いただいている井筒八ッ橋本舗の祇園町南側店では、京町家まちづくりファンド寄附付き商品の販売をはじめ、京町家に関する情報発信コーナーを設けていただいた。

(I) 連携協定関連

公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、京都市、京都市景観・まちづくりセンターで、文化財の維持・保存・活用、京町家の保全・継承及びこれらのPRに関する事業についての連携協定を締結している。令和6年度は、令和5年度に引き続き、京町家の保全・継承に係る改修助成に対し、50万円のご寄附をいただいた。

【寄附受納式】

開催日	出席者	会場
R6. 12. 16	齋藤日新電機グループ社会貢献基金理事長 阪尻日新電機グループ社会貢献基金事務局長 松井京都市長 山本京都市文化市民局長 旗京都市都市計画局長 高田当財団理事長	京都市役所 第一応接室 (本庁舎 3 階)

(オ) 企業からの寄附について

令和 7 年 3 月に、ヒルトン・グランド・バケーションズよりご寄附の申し出をいただいた。ヒルトン・グランド・バケーションズは、令和 8 年春に京都五条にて、京町家をデザインコンセプトとしたリゾートの開業を予定。

(カ) 個人からの寄附について

西村孝平氏、吉田光一氏より多大な御支援をいただいた。

(2) 京町家カルテ・京町家プロフィール・京建物カルテの作成

京町家の価値への理解を深め、保全・継承に繋げるため、京町家の歴史や文化的な価値をまとめた「京町家カルテ」、内容はカルテより簡易であるが、発行までの所要時間が短く低料金である「京町家プロフィール」を発行した。令和元年度からは、京町家以外の近代和風建築などに対して「京建物カルテ」を発行した。

項目	令和 6 年度発行件数	令和 5 年度発行件数
京町家カルテ	10 件	3 件
京町家プロフィール	135 件	114 件
京建物カルテ	3 件	1 件

(3) 京町家に関する普及啓発業務(京町家カルテ簡易版の作成)(京都市受託事業)

所有者の京町家保全・継承に努める意識を醸成するため、京町家条例における個別指定京町家を対象として、京町家カルテの簡易版(個別指定京町家レポート)を作成した。

項目	令和 6 年度発行件数	令和 5 年度発行件数
京町家カルテ簡易版	5 件	5 件

(4) 建造物指定に係る調査資料作成業務(京都市受託事業)

京町家条例における個別指定京町家のうち、景観重要建造物又は歴史的風致形成建造物等の指定候補となる京町家について、審議会に提出する諮問資料作成のための調査資料を作成した。

項目	作成件数
景観重要建造物候補	2
歴史的風致形成建造物候補	5
景観重要建造物及び歴史的風致形成建造物候補	1
合計	8

(5) 京町家状況調査業務（京都市受託事業）

平成20年度・平成21年度に実施した「京町家まちづくり調査」（第Ⅲ期調査）及び平成28年度「京町家まちづくり調査追跡調査」（前回調査）において確認した約4万軒の京町家について、京町家条例及び京町家計画に基づく取組の効果検証及び更なる支援策の立案等に向けた京町家関連諸施策の基礎資料とすることを目的とした調査を実施した。

調査内容は以下のとおり。

- ① 京町家に係る基礎調査
- ② 京町家を取り巻く環境及び所有者の負担に関する調査
- ③ 京町家に係る意識・意向の調査
- ④ 京町家の分類
- ⑤ 京町家の滅失状況の調査

今回の調査は、現地踏査を行うことなく京町家の状況を把握するため、立命館大学の協力により、地理空間情報システム（GIS）を用いた調査手法の組み立て、調査結果の比較・分析、持続可能な京町家状況調査手法の開発を行った。

また、当財団が実施している京町家相談事業の実績や京町家に関係する団体や専門家との連携をもとにした、京町家関係者の意識調査や京町家の分類、京町家の継承の道筋や滅失要因に関する考察などを行った。

【調査概要】

調査体制：京都市、立命館大学及び当財団による協定に基づいた共同実施

実施期間：令和6年9月～令和7年3月

調査範囲：第Ⅲ期調査及び前回調査における調査地域である以下の範囲

- ① 戦前に市街化された以下の地域
 - ・都心部（主に上京区、中京区、東山区及び下京区）及びその周辺（北区及び左京区のごく一部）
 - ・伏見旧市街地
- ② 旧街道沿い（若狭街道、鞍馬街道、奈良街道、渋谷街道、旧東海道、伏見街道、鳥羽街道、竹田街道、西国街道、周山街道、愛宕街道及び山陰街道）

【調査結果概要】

地理空間情報システム（GIS）を用いて各種データを重ね合わせた結果、前回調査以降の約8年間で5,566軒の京町家が滅失し、34,580軒の京町家をデータ上で確認した。この8年間の滅失率は、年平均1.73%となり、前回調査時（年平均1.68%）から微増となった。

5 公共人材育成に関する教育及び研修

(1) インターンシップ受入

当財団を実務経験の場として提供し、大学での履修科目と実際の現場での実務経験を通して、公共的感性を持った人材を育成することを目的に、連携大学からインターンシップ履修生の受入れを例年実施している。

令和6年度は京都女子大学から2名を受け入れた。

(2) 視察受入

国内外の行政機関、大学等からの視察を受入れ、当財団の活動紹介等を行った。自主財源増加の取組として、賛助会員への加入を条件としている。

受入日	団体名	人数	内容
R6. 4. 23	クラーク記念国際高等学校柏キャンパス	28	京都のまちの成り立ち まちセンの役割
R6. 4. 23	千葉県市川市立第二中学校	9	京都市の景観保全について
R6. 4. 24	東豆川市庁公務員チーム	21	まちセンの事業内容について まちセンの財源や運用費について
R6. 5. 9	大邱広域市 西区庁	25	京都市の空き家活用やコミュニティの活性化について
R6. 5. 23	山形市議会環境建設委員会	7	まちセンの事業説明
R6. 5. 24	日光市立小林中学校	4	京のまちかど施設の案内
R6. 7. 2	タイ国立カセサート大学	66	都市開発・運営・古都の保全、文化を活用した観光政策等
R6. 8. 9	立命館大学政策科学研究科 慶南大学行政学科	17	京町家再生、地域まちづくり
R6. 8. 28	釜山女子大学	11	まちづくり、観光振興
R6. 9. 4	ケバンサーン大学 サインズ イスラム大学(マレーシア)	4	都市景観計画
R6. 9. 13	サウジアラビア メッカ市	12	開発と調和した歴史的遺産や文化財保全の在り方
R6. 9. 18	専修大学	5	京町家保全と地域コミュニティの活性化
R6. 10. 10	四の部区長会（福井県）	11	まちセンの概要と展示案内
R6. 10. 18	立命館大学 JICA 課題別研修	13	京町家の保全、事業紹介
R6. 10. 25	富田林市町総代会	20	京町家再生、地域まちづくり
R6. 10. 29	平安高校	3	まちづくりとスポーツ
R6. 10. 31	ウルサン広域市南区議会	7	都市再生
R6. 11. 7	神奈川学園高等学校	43	京町家の現状、継承への取組み、京のまちかどを通しての学習

受入日	団体名	人数	内容
R6. 11. 18	宮崎県綾町立綾中学校	6	京都市の観光の工夫、京都市特有のまちづくり・都市計画
R6. 11. 25	L H住宅公社	6	現在の京町家での仕事や暮らし
R6. 11. 26 R6. 11. 27	京都市立西京中学校	4	京都の街の現状、土地問題、京都景観条例について
R6. 12. 13	東北学院榴ヶ岡高等学校	40	住みよい京都について
R7. 1. 14	所沢市立向陽中学校	19	京都市のSDGsの取組み
R7. 2. 7	島根県津和野町議会	10	京町家再生、地域づくりの取組み、空き家活用
R7. 3. 6	仙台市立仙台青陵中等教育学校 3 学年 18 班	5	京都の景観保全の取組み
R7. 3. 19	テアン郡庁	20	京都のまちづくりの事例
合計	26 団体（内 海外 10 団体）	416 人	

(3) 講師派遣

講師派遣の依頼に応じて当財団職員を派遣し、当財団の活動紹介及び京都のまちづくりの歴史、地域の取組事例の紹介等を行った。

派遣日	派遣先	人数	内容
R6. 10. 3 R6. 10. 4	全国市町村国際文化研究所	45	住民との協働によるまちづくり～まちづくりコーディネーターの役割と技術の習得～
R6. 11. 19	京都女子大学	39	連携活動入門「まちづくりの担い手としての市民 京都のまちづくり」
合計		84	

6 景観整備機構に関わる関連業務

景観法に基づく景観整備機構として、景観重要建造物候補に値すると判断した京町家について、京町家なんでも相談や京町家まちづくりファンド助成事業等と連携し、景観重要建造物への指定を推進するとともに、建物の特性や所有者の意向に応じた他の公的指定（歴史的風致形成建造物等）への提案も行った。

また、相談等に応じてきた京町家等について、公的指定等に向けて継続的な支援を行った。

【公的指定等に向けて継続的な支援を行っている物件数】

12 件

（景観重要建造物指定 1 件、歴史的風致形成建造物指定 4 件

景観重要建造物指定支援中 1 件、歴史的風致形成建造物指定見込み 6 件）

7 京都市景観・まちづくりセンター管理運営

令和3年度から令和6年度までのセンターの指定管理者として選定された。センター来館者の増加、施設価値の向上を目的として以下の取組を行った。

- ・センター利用者数 54,471人（令和5年度末 47,168人）
- ・展示施設利用者数 31,529人（令和5年度末 30,539人）

(1) 京のまちかど展示コーナー

平安時代から現代までのまちづくりの流れや町並みの様子を楽しく学べるように、まちなみを再現した展示物やタッチパネル式の映像装置で京都のまちの成り立ちや現状を分かりやすく紹介している。利用者の展示内容の理解を深めるため、ボランティアガイドによる京都のまちづくりの歴史や暮らしを紹介した。

- ・京のまちかど利用者数 31,529人（令和5年度末実績 30,539人）
- ・ボランティアガイド案内 252人（令和5年度末実績 350人）
- ＜利用者拡大に向けた取組＞
- ・関西文化の日（関西の博物館等の文化施設連携イベント）に参加
- ・第28回京都ミュージアムロードに参加

(2) 図書コーナー

市民の皆様の主体的なまちづくり活動を支援するため、まちづくり・市民活動・福祉ボランティア・高齢者福祉の各分野に関する図書、視聴覚資料、雑誌、地図、行政資料等を豊富に揃え、閲覧、貸出しを行った。

- ・所蔵資料数

内 訳	令和6年度末実績	令和5年度末実績
一般書籍	14,328点	14,667点
郷土資料	1,250点	1,260点
行政資料	1,030点	1,024点
視聴覚資料	306点	303点
雑誌	455点	436点
地図、絵本等	592点	584点
合計	17,961点	18,274点

- ・利用状況

内 訳	令和6年度末実績	令和5年度末実績
利用者数	15,235人	14,594人
利用者カード新規発行数	148枚	136枚
利用者カード延べ発行数	4,487枚	4,339枚
図書等貸出数	2,525点	2,588点

ア 巽和夫文庫の開設について

故・巽和夫氏（元京都大学名誉教授、都市住宅学会初代会長、元全国建築審査会協議会会長）の御遺族や有志による「巽和夫記念文庫プロジェクトチーム」（代表高田光雄京都大学大学院工学研究科教授）の御協力の下、巽氏が所蔵されていた資料2,105冊の蔵書を当財団に寄贈いただいた。これを広く市民の皆様に活用いただくため、ひと・まち交流館図書コーナーに「巽和夫記念文庫」を設置している。

・貸出数 22点（令和5年度末 24点）

イ 利用者拡大に向けた取組について

毎月4センターが交代で企画するテーマに沿った書籍約15冊を図書コーナーに展示しており、2週間ごとに季節や時事的話題に沿った題材で「ピックアップ」展示を行っている。

(3) 洛中洛外図屏風

ひと・まち交流館地下1階に設置されている国宝洛中洛外図屏風（上杉本）実物大複製パネルを活用し、屏風に描かれた室町時代の京都の四季とそこに暮らす人々の生活風俗を紹介する催し（洛中洛外図の基礎講座及びフィールドワーク）を行った。

開催日	テーマ	出席者
R6. 4. 27	フィールドワーク「洛中洛外図の白川を歩く」	21
R6. 5. 18	洛中洛外図の基礎講座「立売の辻」	24
R6. 6. 15	洛中洛外図の基礎講座「中世の芸能民 傀儡子(ケグツ)」	28
R6. 7. 13	洛中洛外図の基礎講座「祇園社神人と町衆」	32
R6. 8. 17	洛中洛外図の基礎講座「上杉本洛中洛外図の謎解き」	30
R6. 9. 21	洛中洛外図の基礎講座「足利義輝の将軍御所」	28
R6. 10. 26	フィールドワーク「洛中洛外図の東陣を歩く」	30
R6. 11. 9	洛中洛外図の基礎講座「フロイスの見た中世京都」	32
R6. 12. 14	洛中洛外図の基礎講座「梁塵秘抄で見る中世の情景」	30
R7. 1. 19	洛中洛外図の基礎講座「絵師 狩野永徳」	25
R7. 2. 8	洛中洛外図の基礎講座「鴨川に架かる橋と災害」	26
R7. 3. 15	洛中洛外図の基礎講座「平安京の内裏と里内裏」	28

(4) まちづくり交流サロン

まちづくり交流サロンにおいて、京町家の構造などが分かる模型のほか、ミニチュアハウスと紙彩画の展示「着物づくりと京町家」を常設展示しており、令和7年3月12日から3月16日の期間で下京区ふれあい事業実行委員会と連携し、「下京まちなかアート」の展示も行った。

また、様々な分野の人と同士がつながり、新たな交流の輪を広げるカフェ「The Base Mental Café」を毎月第2金曜日（17:30～20:00）に開催した。

・来場者数 延べ約400人

(5) まちづくり工房

コピー機、印刷機、紙折機、製本機等を設置し、主催、共催事業等での活用、登録団体への貸し出しをしている。

＜稼動回数＞ 1 1 4 回（令和5年度末実績 1 1 4 回）

(6) ワークショップルーム

景観・まちづくり大学をはじめとする主催、共催事業等での活用のほか、登録団体への貸出しを行っている。

＜稼動回数＞

ワークショップルーム1 2 5 1 回（令和5年度末実績 1 9 9 回）

ワークショップルーム2 2 8 9 回（令和5年度末実績 2 5 9 回）

＜うち他団体使用回数＞

ワークショップルーム1 6 7 回（令和5年度末実績 6 1 回）

ワークショップルーム2 4 1 回（令和5年度末実績 4 3 回）

公2 京町家保全再生事業

良質な地域コミュニティの形成と歴史都市・京都の景観の基盤を構成してきた、京町家等の伝統的建造物を保全・継承し、伝統的な京都の暮らしの文化を今に活かすとともに、歴史資産としてのストックと新たに形成される良質な建造物とが融合した京都らしい活力のある歴史的町並みの形成を目的とする。

京町家まちづくりファンド改修助成事業

京町家まちづくりファンド基本方針に基づき、京町家の再生・修復、通り景観の修景に係る工事等の活動に対し、改修費用の一部を助成した。

令和6年度交付実績：実績なし。

以下、改修助成事業の状況を記す。

【令和6年度選定】

●昭和小路 ココナガヤ(京町家の改修)

所在地：東山区五条橋東四丁目

事業状況：R6.12 着工、R6.12 外観意匠協議、R7.2 中間検査、R7.5 竣工予定

交付予定：5,000,000 円

改修内容：屋根の改修、外壁の改修、建具の改修

概要：

- ・東山区の昭和小路の路地奥にある空き長屋を、若者・子育て世帯向けの職住一体の建物として改修、活用予定。
- ・令和7年3月18日付で、路地奥の敷地にある京町家の大規模修繕・模様替が可能となる、建築基準法施行令第137条の12第6項の規定に基づく認定を受けた。

改修前



ココナガヤ外観

改修中



中間検査時のココナガヤ内部

改修後



CG パース



CG パース正面

●竹中庵の京町家3軒（通り景観の修景）

所在地：左京区岡崎円勝寺町

事業状況：R7.5 着工、R7.10 竣工予定

交付予定：8,478,000 円

改修内容：屋根・外壁の改修、建具の改修

概要：

- ・白川に面した元精麦所の寮として利用されていた建物を改修し、この地域の歴史や文化の発信を含めて活用予定。

改修前

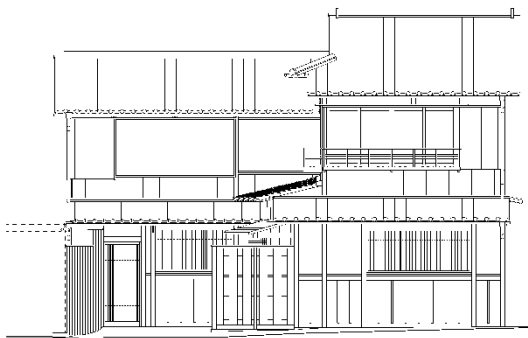


白川沿い外観

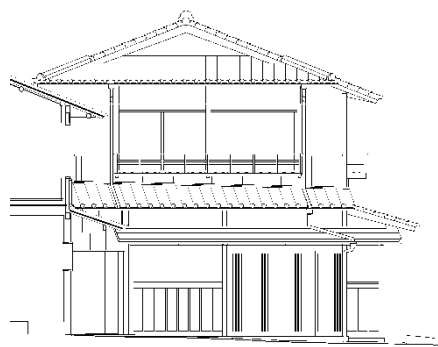


路地側外観

改修後



白川沿い立面図



路地側立面図

収益事業

歴史的建造物利活用事業

京町家の利活用の更なる展開と町並み景観の維持向上を目指し、重要伝統的建造物群保存地区（祇園新橋地区）内の歴史的建造物を所有者である京都市から当財団が貸借し、民間の活力ある事業者へ貸し付けるサブリース事業に取り組んだ。

- ・令和4年10月 京都市とのマスターリース契約締結
- ・令和4年11月 利活用事業者の公募開始
- ・令和5年 3月 利活用事業者選定委員会開催
- ・令和5年 6月 株式会社ケリングジャパン イヴ・サンローラン ディビジョンとサブリース予約契約締結、8月本契約締結（公正証書）
- ・令和7年 7月 改修工事竣工予定

法人運営

1 理事会・評議員会

理事会、評議員会等を下表のとおり開催した。

【理事会】

回	開催日	主要審議（報告）事項
第 48 回	R6. 6. 10	令和 5 年度事業報告及び決算について 令和 6 年度事業計画及び収支予算の変更について 評議員選定委員の選任及び再任について 第 2 5 回評議員会の開催について 令和 5 年度資金運用結果について 評議員会への理事及び監事候補者名簿の提出について
第 49 回 (書面理事会)	R6. 7. 25	相談役の推薦について 第 26 回評議員会（書面）の開催について
第 50 回	R7. 3. 11	令和 7 年度事業計画及び収支予算について 令和 7 年度資金運用計画について 第 2 7 回評議員会の開催について

【評議員会】

回	開催日	主要審議（報告）事項
第 25 回	R6. 6. 26	理事及び監事の選任について 令和 5 年度事業報告及び決算について 令和 6 年度事業計画及び収支予算の変更について 令和 5 年度資金運用結果について
第 26 回 (書面理事会)	R6. 7. 25	理事の選任について
第 27 回	R7. 3. 27	令和 7 年度事業計画及び収支予算について 令和 7 年度資金運用計画について

【評議員選定委員会】

回	開催日	主要審議（報告）事項
第 8 回	R6. 7. 25	評議員の選任について 令和 5 年度事業報告について

2 賛助会員管理

住民、企業、行政が力を合わせて美しい京都のまちを守り育てていくパートナーシップのまちづくりを推進しており、活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集している。当財団の事業活動を通じ周知・入会勧奨に努めた。

＜入会状況＞ 令和6年度末（令和5年度末）

種別	延べ人数、団体数	会費収入
個人会員	116人（115人）	715,000円（735,000円）
団体会員	22団体（21団体）	1,100,000円（1,050,000円）
	合計	1,815,000円（1,785,000円）

【参考】年間会費 個人（1口）5,000円、団体（1口）50,000円

3 職員研修の充実

職員の資質、能力向上を図るため研修を実施した。

【職場研修】

開催日	研修名	講師又は主催者
R6.4.1～4.2	新任職員研修	当財団職員

まちづくりコーディネーター向けに、業務関連資格の取得奨励制度を設けている。

【派遣研修】

開催日	研修名	講師又は主催者
R6.4.13～10.26	第14期京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）	京都市文化財マネージャー育成実行委員会
R6.7.20～R7.2.15	2024年度京都景観エリアマネジメント講座（基礎講座）	NPO法人京都景観フォーラム 公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター
R7.2.4 R7.3.3	新しい公益法人制度・公益法人会計基準への実務対応	T K C全国会公益法人経営研究会

4 その他

環境改善の取組として、K E S（環境マネジメントシステム）ステップ1を推進した。

環境改善項目	
省エネルギー化	電力使用量 8.3%増加（2024年度実績対比）
省資源化	事務用紙使用量 2.2%削減（2024年度実績対比）
啓発活動	建物周辺の清掃（毎月1回平均9.5人の参加）
省エネルギー化	京町家カルテ・プロフィール及び京建物カルテ作成 148件